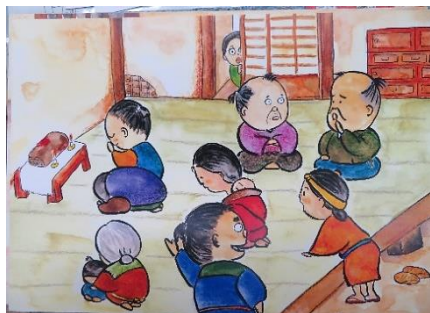




名前のおり病気平癒・靈験神社 くすし じんじゃ 医師神社の伝説(川尻)

今から約400年ほどむかし、川尻地区に疫病えきびょうが流行して、村人がつぎつぎと死んでいきました。

ある時、信心深い徳右衛門とくうえもんという人が田をおこしていると、鍬くわの先に血がついてきました。不思議に思って鍬のあった所を掘り起こすと木コロの化石があらわれ、鍬のあたった所から血が流れでていました。



驚いた徳右衛門はその木コロをさっそく持ち帰り、村人とともに朝夕礼拝したところ、疫病がたちまちおさまりました。

それから、地区の中心に小さな祠ほこらを建てて、病よけの神様やまいとして祀るようになりました。

この木コロの発見された8月24日をお祭りの日と定め、

名前も医師神社として名付け、川尻地区の氏神様うやまとして敬われるようになりました。



一日も早い新型コロナウイルスの終息を願って！
疫病退散!!

※「くすし神社の伝説」の紙芝居より抜粋。
本紙芝居は、井上公民館で貸し出しできます。